



新聞をめくりながら、気になる記事を探す生徒ら＝28日、福井市の県立図書館

郷土新聞作り 生徒こつ学ぶ

県立図書館で講座

県中学生郷土新聞コンクールに向け、記事の書き方や紙面作りなどのポイントを学ぶ講座(県中学校教育研究会社



会科部会、県図書館、福井新聞社主催)が28日、福井市の県立図書館で開かれた。新聞記者らが下調べをして取材に行くなど、新聞作りのこつを中学1、2年生55人に伝授した。

福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターと、メディア整理部の渡辺一誠副部長が講師を務めた。まず、生徒らは28日付の福井新聞をめくり、気になる記事を探した。徳島コーディネーターは「人それぞれ興味や関心は違う。新聞はさまざまジャンルの記事が載っている」とした上で、「新聞の役割は伝えること。郷土新聞では身近な疑

問を掘り下げて、事実と自分の思いを伝えて」と強調した。渡辺副部長は、取材方法や結論を第1段落に明記する記事の書き方、紙面レイアウトなどを説明した。「なぜ、と思つことは必ず聞いてみる。

見出しは、記事を読まなくても分かるような言葉を選んで「などとアドバイスした。受講した福野亜美さん(足羽中2年)は「人の興味を引く見出しをつけることが大事だと分かった」とヒントを得た様子。遠山陽輝君(同)は「テーマは決まっていなくても、県外の人にも福井の魅力が伝わる新聞を作りたい」と話していた。(牧野将寛)